

おどろが 議会だより

第129号 2024. 1. 13



注目!

中学生模擬議会！！

中学生の一般質問に町長もタジタジ！？… 2

中学3年生 模擬議会



令和5年12月15日、小値賀中学校3年生15名全員が「中学生模擬議会」で一般質問に挑みました。

小値賀中学校では郷土小値賀について学んだことを基に、自分の将来と小値賀町の未来について真剣に深く前向きに考えていけるようキャリア教育を進めています。

1年生で学んだ小値賀学、2年生の職場体験学習、そして3年生で小値賀の未来について考えるその集大成の一つが、議場で執行部を前に一般質問を行う「模擬議会」です。

若者が第一次産業に 就業できる取組みを進めて

小値賀町の人口は年々減少傾向で特に若者の島離れが進み、このままでは数十年後には本町を支える人手がなくなり、町が大きく形骸化してしまう。

そうならないためには若者を島外から呼び寄せることが必要で、イターン者も大事だが、Uターン者に向けての対策を行うことが大事だ。

それには、若者が本町に戻ってきて仕事ができる環境をつくることが必要だ。

日本は今、第一次産業の衰退に面しており、衰退すると特産物の生産量は減り、今まで受け継がれてきた産業が消失してしまう恐れがある。

本町で第一次産業に力を入れて地元の特産物に関する仕事をしてもらえれば若者の人手が増え、第一次産業の再発展につながるのではないかと。

未来の小値賀で働く新たな担い手を増やすためには、学校での連携した授業や学習、アルバイト制といった取り組みも必要ではないかと。

昔から続く本町の産業を失わせないように、未来の若者が伝統を受け継いでいくことが大切だ。

学校と連携して

後継者を育てたい

小値賀町の持続のためには、イターン・Uターンに限らず移住者を確保し、町内で働き、定住させていくことがとても重要で、これからも効果的な支援を行っていきます。

本町の第一次産業における働き手の確保対策としては、農業・漁業ともに研修事業に取り組み、研修期間における生活支援などを行っています。

第一次産業における学校との連携は、将来の町出身の後継者を育てるための大変有効な取組と思っておりますので、学校や教育委員会と協議しながら、児童生徒の皆さんに農業や漁業に触れていただく機会を作れるように努めたいと思っております。



はしもと ゆい
橋本 結衣 議員

パブリックアートで観光客と移住者の呼び込みを

小値賀町では少子高齢化が加速し、人口が減少する一方で観光客は年々増加している。

本町の課題を解決するために、観光の目的の一つの柱になり、移住するきっかけにもなって人口減少という課題を克服するきっかけになる、パブリックアートを本町に置くことを提案する。

香川県の直島は瀬戸内海にある人口約三千人の小さな島で、本町と同じく人口減少が課題となっていた。

しかし、ある企業が直島全体をアートにする活動を始めたことにより今は「アートの聖地」と言われ、観光客、そして移住者も増えて島は活性化してきた。

まずは、そのハードルを下げるため、本町出身の芸術家に依頼をして中学校生との交流を行い、そこから徐々に規模を広げて、最終的には大学などと連携して芸術家を呼び込むようにしてはどうか。

費用については、公共施設の建設費の1%をそこに関連・付随する芸術・アートのために支出する「1%フォーアート」に取り組んではどうか。



はまだ なぎさ
濱田 風紗議員

景観に配慮した 作品に協力したい

パブリックアートの効果には大きなものがある可能性があります。

小値賀町では原風景としての自然景観、田園風景、昔ながらの集落景観を守る事が条例で決まっており、これを意識した中でのアート作品の設置についてはとても面白い取組であり、できる限り協力していきたいと思えます。

本町出身の芸術家との交流については授業カリキュラムの調整などが必要ですが、県内外の大学と連携して芸術家を呼び込むことは、このパブリックアートへの取組が進んできた際には有効な手段かと思えます。

1%フォーアートの考え方については、今後計画されていく公共事業の中で、パブリックアートに限らない枠組みで協議していきたいと思えます。

空き家を有効活用して 魅力ある施設を増やして

小値賀町は人口減少が進んでおり、若者を島外から呼び込んで本町を活性化する必要があります。

また本町の一部は重要な文化的景観に選定されているが、増えている空き家は問題となっている。

本町には移住者向けにお試し住宅、空き家バンク、町営住宅があり、お試し住宅と町営住宅はどちらも満室だが、空き家バンクには現時点で3軒しか登録がない。

そこで空き家を有効利用し、移住者を呼び込むためにも、空き家バンクの登録数を増やし、登録された民家をリフォームしてカフェやレストラン、ギャラリーなどさまざまな魅力ある施設を増やしてはどうか。

そこで地域の歴史や文化など本町の魅力を引き出すことができるイベントなどを行えば、観光客や若者を呼び込めるのではないかと。

また、本町で古民家事業のプロデュースをし、島外の人にも注目されているアレックス・カー氏にお願いすることもひとつの方法ではないかと。



こさき わかな
小崎 羽香奈議員

入居した人に できる限り支援する

空き家バンクの登録物件を増やすことについては、住宅の確保に直結する大変重要な課題であり、引き続き良質な物件の確保・掘り起こしに取り組んでいきたいと思えます。

一方、空き家バンク制度は空き家の利用を希望する人に対して情報提供を行う仕組みであり、売買・賃貸にあたっては、家の持ち主と直接交渉し、契約していただくこととなります。

従って、登録物件を町が主体的にカフェやレストランなどにリフォームすることは、制度上想定していません。

空き家バンク登録物件に入居する人が飲食店などを起業する場合には、様々な補助制度もあり、できる限り支援していきたいと考えています。

おいしいものを食べられる 施設をもっと増やして

観光に行くとき観光地を訪れるのはもちろんだが、おいしいものを食べることも大事で、おいしいものがなければ観光は台無しになってしまうと私は思っている。

今、小値賀港のターミナルのショップでは、あおさやかつおの生節などの本町の特産品のほか、海産物や落花生、小値賀焼き、オリジナルTシャツなどが販売されているが、それらを買うのは主に観光客で、しかも帰るときがほとんどで、宿泊中や町民が利用することは少ないようだ。

もっとたくさんの方が買えるように特産品の種類を増やし、ターミナル以外の店舗を設けてはどうか。

東京都にある「ご当地酒場長崎県五島列島小値賀町」というお店では、小値賀周辺や東シナ海で育った鮮魚や、本町の特産品を使ったメニューが出されていて、人気もあるようだ。

観光客が何か食べたいと思ったとき、ターミナルまで足を運ばなくてももっと気軽に買い、食べるのができれば、それが観光客にもう一度来ていただくことにつながるのではないかなと思う。



小崎 琴音 議員

飲食店にアピール 不足を働きかける

小値賀の各種お土産品は、基本的には町内の各店舗で購入することができません。

本町のおいしい農水産物を町内で食べられることは、観光客の誘致やリーダーの増加につながる大切なことだと思います。

町内の各飲食店でも地元の魚や野菜を使ったメニューはあり、お土産品として販売している店もありますが、小値賀特産物々というようなアピールは不足しているように思いますので、飲食店への働きかけを行っていききたいと思います。

例えばブランド魚である「白銀」の太刀魚は町内でなかなか食べる機会はありませんが、せつかくのブランド魚なので町内でも食べられるよう、漁協や漁業者、飲食店と協議していききたいと思います。

空き家を多くの人が使える 施設にリフォームして

年々小値賀町では高齢化が進んで人口が減少し、手入れがされていない空き家が300軒以上あるようだ。

笛吹地区には空き家をリノベーションした尼中東店があり、ここでは子どもたちが卓球や将棋などで遊んだり、地域の方や観光客の方の休憩場所になったりと多くの方のニーズに合った場所になっている。

しかし笛吹地区に住んでいる人たちは気軽に立ち寄れるものの、他の地区の人は遠いので足を運びにくいと思う。

また笛吹地区にはターミナルやカフェ、レストランなどがあるが、他の地区にはあまりない。

笛吹地区以外に子どもから大人、地域の人から観光客まで幅広い人が使える施設を作るとは、とてもメリットがあることだと思う。

さらに観光客にもわかりやすい道沿いにある空き家なら、初めて訪れた人でも行きやすい場所になる。

今ある空き家をリノベーションすることによって、小値賀町の歴史を残しつつ、空き家問題も少しずつ解決につながっていくのではないかな。



野澤 あかり 議員

空き家問題解決の アイデアにする

各地区に空き家をリノベーションした憩いの場があれば、空き家も解消できるとともに、地元の方の利用はもちろん、観光客の利用により交流が生まれ、それが地域の活性化につながることも予想されます。

しかし、各地区の空き家の状態や場所、所有者の意向、改修費用の確保、維持管理や運営の方法などさまざまな問題があり、簡単に実行に移すことはできません。

ご提案は真摯に受け止め、今後の空き家問題解決のアイデアの一つとして検討したいと思います。



公園の遊具を長く安全に 使えるよう老朽化対策を

現在、前浜公園や赤浜公園、柳地区の公園では一部の遊具がなくなっていたり、使用できなくなっていたりする。これは遊具の老朽化によって使用できなくなったものだ。

西町公園は近年新しく建て直されて安全性が増して、いつもたくさんの子どもたちが利用している。

同じように各公園でも老朽化した遊具を撤去し、安全性や老朽化対策を施した遊具を設置することで、子どもから高齢者の幅広い層の憩いの場となるのではないかと思う。

健康遊具が置いてある公園は、住民の健康促進につながると言われている。

公園は子どもだけが遊ぶ単純な場所ではなく、大人から高齢者にも利用される大切な場所だ。

公園の遊具を長く安全に子どもから大人から高齢まで使えるよう、老朽化対策を提案する。

次に、柳地区の公園の滑り台が使用できなくなったのはなぜか。

また、斑地区の公園の遊具は西町公園から持ってきていると聞いたが、その安全性などに問題はないのか。



いわつぼ ゆうと
岩坪 優人議員

安全性と老朽化に

配慮して設置中

遊具は定期的に点検して老朽化が進んでいるものは撤去するなど、安全性や老朽化に配慮して設置しています。

柳地区の公園の滑り台は、滑り台の階段部分が危険だということが点検で分かったため使用を禁止しています。

現在業者に修理を発注しており、もうすぐ使える状態になりますので今しばらくお待ちください。

斑地区の遊具は5年前の西町公園の遊具の更新時にそこにあった滑り台を移したのですが、老朽化により危険と判断し、すでに新しい滑り台に交換しています。



前浜公園に子どもの 遊具と健康遊具の設置を

小値賀町は人口減少や少子高齢化が進んでいる中で、公園の遊具が老朽化により撤去されている。

小学4年生から中学3年生の82人に公園の遊具について聞いたところ、87%の児童生徒が設置してほしいと思っていることがわかった。

公園は、体を動かして運動機能が高めたり、喜びや楽しさを感じたり、ストレス発散をしたりする場所、人が少ないからといって遊具を設置しないのはおかしい。

そこで、広いスペースがある浜津前浜公園に、何度も遊べてまた遊びに行きたいと思える遊具、例えば土手の形に沿った巨大すべり台やターザンロープなどを設置してはどうか。

また、高齢者の健康増進につながる遊具、例えば背伸ばしベンチのように、座って休憩できるだけでなく腰痛予防になる健康遊具などを設置してはどうか。

子どもたちは楽しく遊べて、高齢者は体を動かしながら子どもたちの楽しむ姿を見ることができれば、喜んでもらえると思う。



ふじなが
藤永 かおり議員

前浜公園に限らず

遊具設置を検討している

以前は各地区に遊具を設置した公園がありました。点検調査により危険と判断された遊具は撤去し、現在4つの公園に遊具があります。

人口が少ないから現状のままでもいいというのではなく、整備に向けて場所や規模などの調査をする準備をしているところです。

いろいろな意見を取り入れながら、前浜公園に限らず、皆さんが通いやすく安全で安心して利用できる場所に遊具を設置できるように検討していきたいと思っています。

高齢者の多い小値賀町での健康遊具の設置については、前向きに検討していきたいと思っています。

ベンチの設置についても必要不可欠なものだと思いますので、設置に向けて検討していきたいと思っています。

若者が住み続けられる 少子高齢化対策が必要だ

本町の高齢化率は現在50.8%、全国平均は28.7%で、少子高齢化により地域社会の活力の低下、医療や介護の負担が増えることなどいろいろな問題点が指摘されている。

少子化の原因としては、未婚化や晩婚化、育児に対する経済的負担の大きさなどが言われているが、もし少子高齢化が解決すれば、本町が活気にあふれ、農業・漁業・商業などが衰退することなく、自然や世界遺産、伝統的な文化などの保護や継承をしていけるのではないかと。

現在、本町の少子高齢化に対する取り組みはいろいろあるものの、さらに働く人の給料の増額や働き方改革、結婚・子育て世代が将来にわたる展望を描ける環境を作ったりする取り組みも必要だと思う。

本町が少子高齢化対策として今何を行い、その結果、少子高齢化は改善されているのか、本町に住んでいる若者たちに住み続けてもらうために何をしているのか、少子高齢化による働き手不足を改善するために何をやっているのかについて伺う。



吉村 優羽 議員
よしむら ゆずは

少子高齢化の 改善に向け努力する

小値賀町の高齢化対策の最優先課題は医療・介護人材の確保と考え、町内の介護の仕事に就いていただいた人に支援金を支給しています。

また、介護人材確保の取組を行っている各事業所に対し、町としてこれからもバックアップしていきます。

そのほか高齢者が健康な状態をできるだけ長く続けていけるようないろいろな取組をこれからも行っていきます。

少子化対策としては、福祉医療の対象を高校生まで、こども園の料金は無料、出産祝金は最大で50万円など、本町独自の支援も行っていきますが、少子高齢化の改善には至っていません。

「こどもを育てるなら小値賀」の環境を目標とし、本町の少子高齢化の改善に向けて引き続き努力していきます。

町民の負担軽減のため 空き家を外来医師用住宅に

小値賀町ではこれからも高齢化がますます進むと考えられるが、高齢になると体内の臓器の老化も進んで外部環境の変化への適応力が低下し、複数の病気や症状にかかりやすくなると言われている。

現在本町では、決まった日に7科の専門外来があるものの、医師の都合や天候により日程が変更され、受診できないこともある。

そのため、多くの町民が診察を受けるために島外へ行くことを余儀なくされ、船賃の負担や船が天候に左右されるなど、町民の負担は大きい。

本町では空き家が300軒以上あるが、それらを利用して外来の医師用の住宅をつくれれば、空き家も減って本町に今以上に様々な診療科の医師が本町で勤務ができ、島外へ行く町民の負担を減らすことができるのではないかと。

空き家の改修や、島外からの医師を呼ぶにはいろいろな作業や費用が掛かると思うが、メリットはとても大きい。

このような町民の負担を改善するためにどのような対策をとるのか。



横尾 誠悟 議員
よこお せいご

まずは常勤医師2名体制の 確立から取り組みたい

まずは常勤医師2名体制を確立することを最優先したいと思います。

さらに今までのように専門科外来を継続して維持していくことで、町民の皆様が安心して暮らせるような体制を整えたいと考えています。

医師住宅については、現在、新診療所の東側に常勤医師用の住宅2棟を建設中です。

他にも新診療所内には4つの宿泊室があり、非常勤医師や研修医などの宿泊場所として利用中です。

さらに既存の医師住宅2棟も有効活用したいと思っており、空き家を利用したの外来の医師の導入については、現時点では考えていません。

小値賀空港にドローンの 教習所や合宿の誘致を

昨年の模擬議会の中で、小値賀空港の利用方法の一つとしてドローンを活用する提案があり、町長は「ドローンの受け入れはいいアイデアだ。国の機関が教習所としての使用を認めていただければ不可能ではないと思う。」と答えた。

また、「定期便の復活やツアーによる臨時便の誘致ができないか検討している。」とも答えていたが、その後の進捗状況を教えてほしい。

今、日本国内でも山間部や過疎地域などでもドローンによる荷物の配送が行われている。

そのドローン操縦のための教習場は長崎市内に4箇所あるものの、建物が立ち並んでいたりと、公園にも人が多くいたりして自由にドローンを飛ばすことができずに困っているようだ。

そこで、小値賀空港の広大な滑走路を使用したドローンの教習や合宿を受け入れることを提案したい。

それらがテレビなどを通じて本町の経済効果にもつながり、町民から見ても、ドローンへの学びを深める貴重な時間になると思う。



なかのともき
中野 友稀 議員

今後の空港活用策 としてストックする

昨年の模擬議会で提案された「ドローンの受け入れ」については、まだ検討を行っておらず申し訳ありません。

定期便の復活やツアーによる臨時便の誘致については、現在、ヘリコプターによる富裕層観光客の誘致を行っているほか、パイロットが「個人飛行機旅行を楽しむ場所」として視察を行った実績があり、これらの積み重ねで空港の利用が増加することを願っています。

ドローンについては、ドローン教習や合宿を受け入れることは不可能ではないと思いますが、担当する役場の人手不足もあって、実現についてしばらくは難しいと思います。

ドローンによる配送も含め、今後の空港利活用のための選択肢としてストックさせていただきます。

安全面からも老朽化した 総合体育館の修繕を早急に

小値賀の総合体育館は建築から28年経って老朽化が進み、雨漏りや壁の崩壊、トレーニング室の設備の故障が多いと聞く。

この先さらに老朽化が進むと事故につながる恐れもあるが、本町では何に対策をとる予定はあるのか。

小値賀中学校の生徒にリフォームをした方が良いか聞いたところ、過半数の38人中31人がリフォームすべきだと答え、リフォームをした場合には27人が利用したいという結果になった。

総合体育館は災害時の避難場所にもなっており、さらに壁の崩壊や雨漏りが悪化した場合、避難所としての利用が難しくなる。

町の予算が少なくて難しいところはあると思うが、災害時に町民の安全を確保するためにもできるだけ早く総合体育館をリフォームすることを提案したい。

また、利用する際のルールを誰にでもわかるようにしてほしい、遊ぶための道具が壊れていたら修理してほしいという要望も聞くので改善してほしい。



もりれいか
森 玲香 議員

他施設とのバランスを 考えて検討したい

まず総合体育館の現状を把握するため、耐力度・天井・屋根面漏水箇所の調査を令和4年から今年にかけて行いました。

その結果、多くの施工不良箇所や劣化が激しい箇所が確認され、安全かつ長寿命化のためには、多額の工事費が必要となることが判明しました。

今後本町が持続可能な自治体として存続していくためには、公共施設を計画的に管理・維持する必要があることから、総合体育館のリフォームは他の公共施設とのバランスを考えながら慎重に検討していきたいと考えています。

また要望につきましては、利用の際のルールを誰もが見える場所に掲示し、管理人による定期的な道具の点検整備を行うなど早速対応したいと思っています。

やりがいの発信と報酬 アップで調理員の確保を

現在、小値賀小中学校共同調理場では給食調理員数が定員に達しておらず、週に1回お弁当、週に2回パンの日がある。

全国的にも給食調理員の人手不足が深刻な問題となっている中、本町も工夫しながら募集をかけているものの、申込みのない状況が続いている。

人手不足の大きな要因の一つに、体力を使う仕事の割に給料が良くないと言われることがある。

ある求人統計データによると給食調理員の平均時給は約1004円で、本町の有償ボランティアの報酬は900円からというのは少し低く、上げる必要があると思う。

また報酬だけでなく、給食調理員の仕事の内容についてその大変なところややりがいについてもSNSやおぢか新聞などを使って発信することで、仕事に対する町民の理解も深まるのではないかと思う。

人員が不足して給食調理員一人に任される仕事量が多いと、事故につながる可能性も高くなる。

給食調理員の人手不足に対して、本町では今後どのように対応するか。



新田 結月 議員

報酬アップして

調理員を募集する

現在、調理業務の常勤2名、パート1名有償ボランティア5名が従事しています。

調理員を募集してもなかなか応募がない状態が続いていましたが、短時間で有償ボランティアを募集したところ5人に申し込んでいただき、現在調理業務をサポートしています。

これにより調理員の負担が軽減され、また有償ボランティアの人の負担も少なく調理のサポートに入っていた方がいいように思います。

議員のご提案をもとに、現在働いている人の意見を取り入れ、あらためておぢか新聞や地区回覧、ホームページなどさまざまな方法で調理員の募集を行いたいと思います。

なお、有償ボランティアの報酬については、現在の時給900円を見直す予定です。

役目に中高生も参加して

地域の人との交流も

現在小値賀町では、農道の草刈りや側溝の掃除、町花である水仙の植え付けなど、地区の共同作業である役目がある。

しかし高齢者の増加に伴い、役目に出る人が少なくなっている。このままでは農道が荒れ、側溝を流れる水が滞ってしまう可能性も出てくる。

人が多い地区や範囲が狭い地区なかもしれないが、人が少ない地区や範囲が広い地区だと、一人ひとりの負担が大きくなり、清掃を行える場所も限られてくることになる。

役目は地区ごとの活動だが、本町の景観を守るためには本町全域で協力していくことが大切なので、私は役目に生徒が参加することも必要だと考えている。

それにより人手が足りない地域でも活動がしやすくなって活動範囲が広がるだけでなく、地域の人との交流を通じて地域の現状を知るきっかけにもなると思う。

人が少なくなってしまう地域では、どのように対策をとるべきだと考えているか伺う。



畑村 芽生 議員

提案を実現できるように

努力したい

地区の役目の共同作業に参加する人が減り、農道や水路などの管理がとて難しくなっています。

特に住む人が少ない地域や範囲が広い地区で、有償ボランティアのような形で中高生の手を借りて共同作業ができれば、中高生もお小遣い稼ぎになるなどお互いにメリットになるのではないかと思います。

安全面で解決しなければいけない問題もありますが、中高生が地域での普段の暮らしを大人と一緒に体験することは、高齢化が進んでいる地区の皆さんにも活気が出るし、貴重な体験が人生でのプラスになり、さらに小値賀に対する愛情が深まることにつながるかもしれません。

畑村さんの提案を実現できるように、ぼくも努力していきたいです。

(答弁 町議会議員今田光弘)

LEDの街灯をもっと 増やして危険を減らして

現在、日が沈むのが早くなり、部活動や学習のために学校に残った生徒は、暗い中を下校している。

下校時だけでなく朝まだ暗い中を登校することもあり、特に姫の松原や番岳のような人通りが少ない道は非常に危険を感じる。

本町ではイノシシの目撃情報もあり、実際に私も下校中に見かけたことがあるが、その時はとても怖い思いをした。

危険を減らすには街灯をもっと増やした方がいいと思う。

そしてその街灯は、設置費用は高いが電気代は蛍光灯の約半分になり、しかも長寿命のために交換頻度も少なくなるLED灯がいいと思う。

太陽の当たるところであれば、太陽光を利用してソーラーパネルで発電し、夜間はその電気を使って点灯し、停電時にも利用できるソーラー発電LED街灯もある。

現在、小値賀町はどのような街灯を使用し、どのような場所に設置したら安全になると考えているか伺う。



もりおか せいれん
森岡 聖蓮 議員

通学路の安全確保に 対応しよう

現在小値賀町には町が管理する通学路灯、各地区が管理を行っている街路灯及び商業組合が管理を行っているずらん灯があります。

通学路灯については今年9月に夜間点検を行い、暗く危険と思われる箇所については通学路灯の周辺の枝の伐採やLEDへの取替え等の対応を行っています。また、新たに設置が必要と思われる箇所については、今年度と翌年度に対応することとしています。

街路灯についてもイノシシ防止の役割や防犯灯の役割があるので、新設やLEDに取り換える際には助成を行っています。

ソーラー発電LED街灯についてはメリットとデメリットもあることから、それを把握したうえで交換について検討したいと思います。

道沿いに松を植えて 小値賀の歴史と空間を守って

小値賀町では数年前から松くい虫による被害が増え、町は定期的に薬剤の樹幹注入や、空中散布や地上散布を行い、枯れた木は伐倒して焼却駆除しているものの松の数は著しく減少している。

本町の被害はどのような状況か。

また6〜7年ほどで効果がなくなると思われる薬剤の樹幹注入以外に、松くい虫の被害から松を守る方法はあるのか。

登下校で通る「姫の松原」の景観が私は大好きだ。

また昔から建物の梁などに使用されてきた松は本町の歴史であり、景観の大きな一つでもあり、これを守っていくことはとても大事なことだ。

本町から松がなくなってしまうことはとても悲しく、寂しい。

本町では、抵抗性クロマツのほか、タブノキなどの広葉樹に樹種を転換しているようだが、観光客の目にとまるような姫の松原や番岳などの大きな道沿いには松を植え、海岸沿いは松以外の病気になりにくく、潮風にも強い防風林を植えることを提案したい。

松の範囲を抑えて 松以外の樹種も考えている

小値賀町の松くい虫の被害は平成28年から増え始め、松林全体の約82%が消失してしまいましたが、現在はさまざまな対策が実を結び、年間の被害木は以前の水準に落ち始めてきています。

松くい虫の被害対策として有効なのは薬剤の樹幹注入、薬剤散布、伐倒駆除の3つのため、この対策を実施できる程度に松林の範囲を抑えることが大切で、本場に必要箇所以外には松を生やさないことが、松を守るために重要なことです。

そのため、海岸防風林の植林事業では今回のような被害が発生してしまったときに困らないように、松以外の樹種も一緒に植えて、松だけに依存しない海岸防風林の造成に努めています。



たがわ ひなの
田川 日夏乃 議員





令和六年元旦
辰

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

輝かしい新春を迎え、町民の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、コロナ禍も一段落し、町内のイベントも開催され、ようやく例年通りの活動が戻りましたが、世界情勢の不安に加えて円安や物価高騰による様々な影響が町民皆様の生活に影を落とした一年でありました。

町議会におきましては、議員定数の半数にあたる4名が新人議員となり、世代交代による新しい行動と知恵を発揮し町民生活に少しでも貢献できるよう、議会の活性化に取り組んでまいり所存です。

今年も引き続き人口減少・少子高齢化等の重要課題の対策が喫緊の課題となっていることを踏まえ、小値賀町議会としてもあらゆる方面から対策を講じるべく努力していかねばならないと、身の引き締まる思いです。

小値賀町が持つ潜在的な魅力、恵まれた自然環境や歴史文化を大切とした社会環境の整備を図りながら、町民が安心して暮らしていける為に、「美しい町」「生き生きとした産業の町」「ふれあいとやすらぎの町」を目指して、行政と議会並びに町民が一体となった町作りに取り組んでまいりますので、昨年と同様、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、町民皆様のご健勝ご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。



小値賀町議会
議長 宮崎 良保

議会と語るろう会

小値賀町議会は、

「町民とともに歩む議会」

を議会基本条例で定め、その一環として、**町内の各種団体、NPO等との意見交換の場**である「議会と語るろう会」を開催しています。

コロナ禍でしばらく開催を見送っていましたが、ようやく開催することができました。

11月に2団体と意見交換会を行い、さまざまな意見を聞くことができました。その中で出た意見の一部を本稿で紹介します。

なお、次回は養寿園との意見交換を予定しており、現在日程調整中です。

この他にも「出前議会」、「あおぞら座談会」などを開催し、今後も多くの町民の方々と議会の対話の場を設けることで、町民の皆さんと力を合わせ、より良い小値賀町にしていきたいので、ご理解とご協力のほどよろしく願います。

和牛部会・園芸部会・農協



- ① 飼料高騰で経費が高み経営が苦しい。売っても赤字で補助してもらえない。助かるが、あまり補助ばかりお願いするのも申し訳ない。
- ② キャトルセンターに預けると、経費がかかり利益がでない。
- ③ 輸送費の負担が大きく、補助を増やしてもらえると助かる。
- ④ フェリーいりのりのドックの時期と牛

- 市が重なることがあり不便。
- ⑤ アルバイトなどの島内での求人情報をまとめる窓口やウェブサイトがほしい。閑散期や自然災害の時などに利用したい。
 - ⑥ 里山放牧事業について、放牧地の更新にも補助金がほしい。

おぢかアイランド ツーリズム協会



- ① 観光客は本物の体験を求めているが、体験のコンテンツが少ない（特に芸術系）ため、もっと充実させたい。
- ② 小値賀は牛飼いが盛んだが、食べることができない。

- ③ 藤松レストランの料金は安すぎるのと声をよく耳にする。
- ④ 五島列島の中でも希少な笛吹の古い町並みが失われつつあり、景観上非常に問題だ。自信をもってPRできない。町並みを守るために、専門家にアドバイスを求め対策すべき。
- ⑤ 本町の観光に関する方針を明確に示し、IT協会や民間事業者、町民の皆さんと共有すべき。
- ⑥ 小値賀ファンをデータ化できていない。アンケートやアプリを活用し、マーケティング戦略の増強を図れないか。
- ⑦ 野崎を訪れる観光客を少しでも小値賀へ寄らせる努力をして欲しい。
- ⑧ 無人島ツアー。滞在日数が増える。

あおぞら座談会

随時受付中！

- ① テーマ自由！
- ② 形式自由！
- ③ 場所自由！
- ④ 対象者制限なし！
- ⑤ 5人以上で受付！
- ⑥ いつでも開催！

※お問い合わせ、

お申し込みは、議会事務局まで。



秋も楽しい行事が たくさんありました!!

こども園運動会



ほれっ!もっと早よ走れ〜!!



投げて投げて投げまくれ!

10月21日、総合体育館にて、こども園の運動会が行われました。
可愛い園児たちのダンスや一生懸命に走る姿に、来場者はメロメロでした!
先生方、スタッフの皆さんお疲れさまでした!

中学校学習発表会



3年生によるダンスパフォーマンス!



トモキです。。

11月2日、中学校体育館にて、学習発表会が行われました。
3年生にとっては最後の学習発表会です。このメンバーでしか表現できないことを十分に存分に発揮したことでしよう。さあ、受験がんばって!

少年の主張



皆さんとても素晴らしい発表でした!



最優秀賞の川村 聖斗くん

11月12日、離島開発総合センターにて、少年の主張が行われました。
子ども達の堂々とした発表に、来場者は目も、耳も、心も奪われました。
この子たちは小値賀の希望です。小値賀の未来は明るい!

ふるさと産業まつり



子ども達による大迫力の和太鼓!



さて、私はだれでしょう??

11月26日、総合体育館駐車場にて、ふるさと産業まつりが行われました。
たくさんのお店や有志によるパフォーマンスで、会場は大賑わいでした。
今年も：景品：ハズレ：
来年こそ当たりますように!

定例12月会議



小学生たちが一般質問を傍聴しました。

条例改正・補正予算を中心に
一般質問では 議長を除く7人全員が登壇！

出産被保険者の 産前産後の国保税が免税に

小値賀町国民健康保険税の納税義務者の世帯に、出産を予定している被保険者がいる場合、その世帯の納税義務者に対して課される所得割額と被保険者均等割額が減額されます（令和6年1月1日より適用）。

免税の対象となる期間は
下図のとおりです。

免税の対象となるには、
役場住民課へ申請が必要で
すのでお忘れなく！

なお、対象となる世帯に
は個別にお知らせが配布さ
れる予定です。



特別会計補正予算

～主な内容～

- ①はまゆう修繕・メンテナンス費
648 万円
- ②水道施設整備工事完了による減額
-350 万円
- ③産前産後期間の国保税免税に伴う
システム改修費
92 万円

一般会計補正予算

～主な内容～

- ①ふるさと寄付金による基金積立金
1,500 万円
- ②生活保護世帯への医療費補助
1,000 万円
- ③子牛価格の下落等による緊急支援
990 万円

一般会計7910万円増額
特別会計419万円増額

会の確保について

最大限の危機感をもって 高校存続に取り組むべきだ！

孫留学 親子留学も視野に入れ 全力を尽くす

A Q



今田 光弘議員



YouTube

※ここから動画が見られます！

小中高一貫教育ならではの乗り入れ授業や合同行事など、学習活動の様子が町民に伝わるよう、町内各所でその動画を流すなど工夫をしたい。今後もさらに有効な手段がないか考えたい。

問 教職員の負担が大きくなり、働き方改革の流れに逆行してはいないか。

答 校務支援システムの導入や、登校時刻の見直し、学校閉庁日の設定、中学校部活の週2回の休日設定、今年度からは学校給食の公会計化も図っている。

小中高一貫教育の柱である地域探究活動は、今後教職員がどこに異動しても求められることだと思ふ。

小値賀の小中高一貫教育を通じて経験値を上げ、結果、効果的な教育活動を行うこと

少子高齢化、人口減少の波に抗うためには教育環境の整備が重要で、結果が出るには時間がかかるからこそ早急に全力で取り組む必要がある。特に高校の存続問題に関して、教育長は今までの取り組みについて熱く語り、町民への説明責任を果たしてきたが、町全体が危機意識を共有するところまでは至っていない。今までの答弁を振り返り、あらためて教育長の考えを伺う。

小中高一貫教育について

問 子どもたちの学びに向かう姿勢や、教職員が子どもたちに寄り添う姿を地域の人に知らせる方法はあるか。

答 各学校のホームページ、学校日より、おぢか新聞での情報発信のほか、今年度は新たに学期ごとの動画撮影を制作している。



につながら、働き方改革の趣旨にもかなうと思うが、今後負担軽減の為に行事等の精選を図りたい。



こどもの教育機会

高校の魅力化について

閩県の求める「高校の活性化策およびこれを踏まえた学校のあり方」について知りたい。

【答】令和6年度は、生徒が町外で地域探究に関する取り組みの紹介や、アンケートを実施、起業家的資質、能力の開発を図る専門家を招き講演会を行う、他の県立高校からもALT（外国語指導助手）を招くことを盛り込む。

【問】コミュニティスクールとなっているので、より地域と連携した取り組みを推進したい。

【答】キーワードである「地域探究」をカリキュラムとして、どのように取り込もうとしているか。

【答】協議会と連携した全員参加型の探究活動は、少人数教育ならではの成果がある。

【問】しかし進化も必要で、地域が探究活動の手伝いをするのではなく、高校生の提案を取り入れることで、まちづくりが推進され高校と地域の魅力化につながると思う。



【問】北松西高校を存続させるために、町へ移管する（町立化）研究を進めているか。

【答】組織的な検討研究はしていないが、早期に検討研究するべきという意見と理解した。

離島留学制度について

【問】児童生徒を呼び込むための本町らしさが具体的に伝わる教育目標は何か。

【答】「人と島と、ともに輝く」をコンセプトにしており、島暮らしの時間、体験、多様社会への対応を身につけ、生きる力を育むこと、そして本町を第2の故郷として、将来の「ただいまと、おかえり」を目指している。

【問】親子留学や、祖父母の家から登校する孫戻し留学制度も導入すべきではないか。

【答】高校生の留学生がいない現状を踏まえ、令和6年度にその研究の予算要求を検討している。

【問】留学生確保のため、入寮型は高校生に限るという考え方も検討してはどうか。

【答】検討した方がいいと思う。孫留学、親子留学と併せ研究し、ふるさと留学評議会で協議する。

【 質問を終えて 】

北松西高校の存続を目的の一つとして4年前にスタートしたふるさと留学制度。残念ながら1年間で島を去る留学生が多いです。

これからは親子で留学、孫戻し留学、高校生の下宿制度など、受け皿を広げて募集する必要があると思います。

そして何より、北松西高校が魅力のある、通いたい!と思える高校であることが一番です。

今が踏ん張り時。「とんがった」魅力あふれる北松西高校に町民みんなで力を合わせていきましょう。



本通り商店街について

高校存続問題解決と若者を中心とした町づくりを！

どちらも重要な問題 これからも全力で取り組む

A Q



小辻 隆治郎議員

※ここから動画が見られます！



YouTube

北松西高生の入学者減については、かねてより深刻な問題とされている。

県教育委員会が示す目安として、1学年10人というのがあるが、北松西は1年生7人、2年生7人、3年生6人の全校生徒20人と高校存続にかかわるまでに至っている。

小中高一貫、ふるさと留学制度に取り組んでいるものの未だ低迷状況だ。打開の道はあるのか。

高校がなくなる

デメリットはなにか

円存続困難となった場合、町としてのデメリットは何か。

◎学校教育環境の影響として、小中高一貫教育の枠組みを失ってしまう。

また地域社会への影響として、生産年齢人口減少を加速化させ、経済やまちづくりに大きく影響する。(教育長)

大成功している島もある 本町との差は何か

◎北松西高在校生が現在20人に対して、似たような状況下にある島根県海士町の島前高校では、令和4年現在生徒数が168名で、その3分の2の110名が島外からの入学者であるが、この差は何か。

また小中高の補助機関として公営塾を検討してはどうか。

◎離島留学の対象と、地域の魅力化に対する関わり方の違いだと思う。

海士町は高校生に特化した島留学を実施しているが、本町は小学校5年生から高校生まで幅広く設定しているにも関わらず、希望者のほとんどが中学生である。

高校魅力化への関わり方では、本町は高校が行う活動へ

の財政支援が中心だ。

一方、海士町は、学校、官民の地域総がかりで取り組み、高校と連携した公営塾が特徴である。本町にもそうしたものがあれば保護者の安心感が増すと思う。

本町も地域総がかりで、唯一の高校の魅力を高めたいので、町民皆様の積極的な参加をお願いしたい。(教育長)

町の政策として中核的 位置づけで取り組む気か

◎町執行部は教育に最大限に配慮すると発言している。

町政策として、中核的な位置づけで取り組む覚悟があるのかどうか、町長に伺う。

◎町政運営の5本柱の一つとして、中核的な位置付けとして取り組んでいく。



北松西高校存続と笛吹

子どもは町の宝であり、子どもの教育なくして本町の発展はないと考えている。

小中高一貫教育、ふるさと留学、高校魅力化推進の三つの柱を連動させ、地域力も結集しながら取り組みたい。

(町長)

笛吹本通り商店街について

圓笛吹本通りの空き店舗が増えつつあることに対し、どういう対策を考えているか。

●町の人口減少による経営規模の縮小、インターネットでの購入の拡大、経営者の高齢化や後継者不足、そして廃業が原因にある。

そして、廃業しているとしても、店舗兼住居のため、愛着のある住宅を出ることは難しい。

雇用機会拡充事業、新規事業支援金もあるので、今後も商工会と連携し、商工業の活性化、商工業者の後継者対策に力を入れていく。

その中で、本通りから一本入った路地や裏通りも含めた、雰囲気全体での町づくりとして考えていきたい。(町長)



町おこしに町内外の有志を

圓現在、過疎化が進む地方では町おこしが盛んに議論され、成功事例が多数ある。

地元の有志と外部の若い学生や人材とで町の指針を創るための協議会を発足させることも必要ではないか。

●本町も深刻な担い手不足はあるが、各事業所、NPO、外部人材も取り込みながら、地域活性化、持続可能な地域の運営を目指したい。
それには地域住民が中心となって協議会を組織し、運営することが必要である。(町長)

若手中心の本通り開発を

圓小値賀に来島した観光客の8割が感動したと言っており、それだけ小値賀は潜在的な魅力がある。

観光を町の起爆剤として活性化していくためには、町内の若い人材を中心に盛り上げていくことが大事だと思う。

笛吹本通りの開発はその一歩と考えるが。

●コロナ前には及ばないものの、観光客も増加傾向にある。外貨獲得手段の観光産業は、商工業の活性化のためだけではなく、本町にとっても大変重要な産業なので推進したい。

しかし、笛吹本通りの開発は様々な観点から大変難しい。観光産業の振興については、世界文化遺産である野崎島や他の二次離島、文化的景観や町並み、豊かな自然景観を中心に進めていきたい。

笛吹においては、地域ごとに特徴のある景観や町並みを大切にしながら、地区全体で町づくりを進めていく。

(町長)

【 質問を終えて 】

北松西高校については、人口減少に伴い、在校生の数も今や危機的な数字となりました。高校存続の問題は、町の行く末を占う喫緊の課題ですので、執行部の英断が急がれます。

また、商店街の復興はどこの町でも真剣に取り組んでいますが、従来の商店では生き残ることは難しいのが実情かも知れません。

時代は急展開しています。皆さんと一緒に町づくりについて考えていくことが大事と考えていますので、ご意見をお聞かせください。



に関する資格取得について

お年寄りに優しい町づくり 島を武器にした教育を！

高齢者負担軽減に務め 資格取得は各所と協議したい

A

Q



橋本 武士議員

※ここから動画が見られます！



YouTube

ごみ分別作業員について

圃高齢化が進む中、燃えるごみ、ペットボトル、ビン、缶、そして段ボール、不燃物と、高齢者にとってはこの分別作業はストレスだと思う。

家庭でのごみの分別作業の負担軽減のために、ごみ分別作業員を設置できないか。

理想としては、生ごみと、それ以外のごみの2つの区分けにし、最終処分場で作業員が

分別作業し、その後島外搬出という流れにできないか。

どうか高齢者の分別作業を助けてあげたい。

◎ごみの分別は、ごみの減量化対策に大きな役割を果たしているが、分別の複雑化が町民の皆様に変な負担をおかけしていることは承知している。

分別作業員を配置し、ごみ捨ての負担の軽減を行いたい。が、環境関連施設職員の人手不足と高齢化、また募集をし

てもなかなか人員を確保できないのが現状だ。

分別作業を行える既存の施設もなく、新たに整備、運営は経済的にむずかしい。

以上のことから、ごみの分別作業員の設置は難しいが、今後少しでも負担が軽減されるよう努める。

圃焼却炉新設費用が浮いたにも関わらず、新たにごみ袋を購入することになり、お年寄りにとってみれば一度出し忘れると一週間近く溜まったままになり、小さな家だとごみ屋敷になる。

段ボールのカットも、カッターを使うので怪我の危険もある。

各地区で役目みたいだに段ボール係等を決めてもいいと思う。

◎町民の皆様には大変ご苦

労、ご不便をおかけし申し訳なく思う。

段ボールに関しては、10月に購入した圧縮梱包機が大きくなり、収集する段ボールに関しては、裁断する必要はない。





ゴミ分別作業員設置と海に

海関連の資格取得について

圃本町が周囲を海に囲まれている特性を生かし、町内の16歳から18歳の子供たちを対象として、海と関係が深い2級船舶免許とスキューバダイビングライセンスの取得費用を支援してはどうか。

子供たちが本町の魅力を知る独自の教育カリキュラムとして有効であると考えるが、町長及び教育長の考えを伺う。

◎町外から留学生を募集するため、本町独自のものがった教育プログラムが必要だと思う。

ただし、基本的に高校の生徒が対象となることから、県教育委員会での調整が必要となる。

いきなり教育カリキュラムではなく、部活動、もしくは社会教育活動として検討すればいいと思う。

高校存続のためにも、本町の未来を担う子どもたちの育成のためにも良い施策だと思う。(町長)

◎小値賀らしさのある良い提案だと思う。

小中高一貫教育での連続性や地域探究学習にどう溶け込ませるかが課題になる。

とがった教育カリキュラムにするには、子ども、保護者、学校、地域の合意形成も必要となる。

興味深い提案なので、産業振興課と連携し、学校とも協議したいと思う。(教育長)



海から得る学び

圃スキューバダイビングでは、言葉が聞こえないので相手の目を見る。

経験を積めば、相手の目を見て気持ちを読み取る能力が身につくので、教育的要素もあると考える。

地域探究という意味でも、小値賀の海底にあるいろいろなものを写真に撮って、発表する等の企画も生まれる。

◎教育委員会と産業振興課が連携し、体験プログラムを作るところから始め、子どもたちや保護者の反応や感想を聞きながら、部活動に導入できないか真剣に検討したい。

圃町長や教育長、課長達みんながウエットスーツを着て、海の中で写真を撮り、本町はスキューバライセンスが義務付けられており、全員がダイバーだとメディアで発信すれば、大きな話題を生むと思う。
◎はっきりPRしていきたい。

【 質問を終えて 】

今回の一般質問を通して、私が一番訴えたかったことは役場の職員をはじめ、今を生きる大人たちに笑顔が少ない、元気が足りないと感じたのが最初です。

スキューバダイビングのライセンス取得も子供たちに促す前に大人がやって見せないといけません。カッコいい大人を見せよう。それは大人のチャレンジ精神です。子供たちに必要なのは「転ばぬ先の杖」ではなく、何事にもチャレンジし、その結果こけてしまった時に何度でも立ち上がる大人の姿を見せることだと思います。



停止した場合の備えについて

想定外の大規模災害を 本町はどう迎え撃つのか！

我々も知らない情報だ 資料があれば検討したい

A

Q

えている。

主要避難所には、発電機等を配置しているが、全ての避難所への配置は今後検討する。



立石 光助議員

※ここから動画が見られます！



YouTube

時代に則した避難所とは

高度経済成長長期に整備された、電力網や上下水道は更新の時期を迎えている。

人口減少に歯止めが利かない本町においては、老朽化したインフラの更新にかかる費用の回収が困難なため、財政的に維持が難しくなる。

また、今後環境負荷の小さいエネルギーにシフトする必要があり、「分散型」「小規模」地

方」に注目が集まっている。

自然災害等により長期間インフラが停止した場合でも最低限の避難生活を送ることができることが必要だ。

地域の避難所となりうる住民センター等に、独立した給排水や熱源、最低限の電力を小規模分散型にすることで、将来財政的に更新が難しくなるインフラの代替として機能させ、持続可能で安心安全な暮らしが実現できると考えるが、町長の考えを伺う。

答 基本的に各事業者が長期間供給の停止に至らないよう、平素から計画的に施設の点検や更新が実施されている。

電気は、九電と定期的に停電頻発箇所を協議し、改善されている。

本町が運営している上下水道、水道施設については、設備更新を図り、飲料水の安定供給に努めている。

下水道施設は笛木浄化センターに集約し、維持管理経費の削減も図る。

災害等の避難所等の対応は、各地区住民センター等に耐震性がないため、避難施設に位置付けておらず、水や電力の小規模分散は、現在考えていない。

しかし、電気については、九電に早期復旧設備ネットワークの見直しを協議したいと考





長期にわたってインフラが停

生ごみを利用した設備を

日常生活に必要なライフラインは、水、電気、ガスが主だが、ガスの供給が途絶えた場合に、大型の生ごみ処理機から出るメタンガスを調理用のガスとして利用できる技術がある。

また、堆肥に加え液肥も抽出できる技術も開発され世界的に普及しており、一台の費用は15万円と非常に安価だ。

さらに、その生ごみ処理機にバイオトイレを繋げ、メタンガスを取り出し、排泄物は堆肥と液肥にすることまでできる。

防災の観点で、避難所機能を高めるためにも、既存のインフラに頼らない設備も有効ではないか。

答 今ある生ごみ処理機に接続し、メタンガスを収集するような機械の存在も、それを設置するようなことが可能かどうかとも承知していない。是非関係する資料を提示して欲しい。

小規模焼却炉を検討しては

大規模災害発生時にはごみ問題が出るが、小規模焼却炉施設が一つあれば、多くの課題が解決できると思う。

本町のごみ島外搬出には毎年多額の費用がかかるが、小規模ごみ焼却施設は1基当たり1500万円程度導入できる。

本町のごみの量は476トン、この焼却施設で処理するには、7台ほどあればいい計算になる。つまり1億5000万円程度、島外搬出しなくて済むようになる。

さらに、この焼却施設にボイラーを設置すれば、ごみを燃やせる、お湯も沸かせる、お風呂も使用可能になる。

各地区にそういった設備があれば、避難所としての機能も高まり、大規模災害であっても一定期間暮らすことができる。

これを導入することは、本町の防災機能の強化にも繋がっているのではないかと。

答 生ごみ処理については、各地区で燃やすことはできないので、西目に焼却場を作った経緯がある。

小規模焼却炉ができるかは分からないが、町民からは布団や畳、家屋廃材を処分できる焼却炉が欲しいとの声がある。

議会でごみの島外搬出を承認してもらったが、町内で解決できる方法はないか検討している。調査の結果次第で、(検討中のものを)導入できるならば導入したい。

私の紹介した焼却施設は全て対応できる。防災拠点だけでなく、インフラに接続しないオフグリッドの住宅は全国的にも広がりがつつある。

国に先駆けたモデル、地域内完結型の生活環境づくりも、非常に大切な視点ではないか。

今後、防災力強化と、CO2削減、カーボンニュートラルに向かう我々が、明るい未来を残すためアクションを起すべきである。

答 (執行部からの答弁なし)

【 質問を終えて 】

6月の定例会議から今回まで3回とも、普段あまり気にすることのない避難所のハード面について質問を重ねてきました。大切なことなので何度も申し上げますが(もうよかぞ!との声も聞こえてきそうですが)、この島での暮らしを雲孫の世代まで繋いでいくためには、安全に安心して暮らせることが大前提です。「地球温暖化の原因は人間の活動によることは疑う余地がない」と断言された今、地球環境にかかる負荷をできる限り小さく抑えることが、今を生きる私たちの責務です。まずは暮らしの安全を、可能な限り環境負荷の小さい形で確保することが重要です。



格差) と男女共同参画について

全ての町民の幸せを願うからこそこの問題を追及する！

老若男女が幸せに暮らせるよう追及したい

A Q



森岡 正雄議員



YouTube

※ここから動画が見られます！

ジェンダーギャップ（男女間格差）と男女共同参画について、メディア等では一方の主張のみが取り上げられ、反対意見すら言っていない風潮になっている。
反する意見を言おうものなら、女性差別や女性蔑視というレッテルを貼られかねない異常な状況である。
誤解のないよう言うが、私自身は女性があらゆる分野でその能力を発揮し、大いに活躍してほしいと願っている。

しかし、現在の無理やり数だけを増やそうとする動きには違和感を覚える。
何よりも気がかりなのは、本町の女性が本当にそうした社会を望んでいるのかということだ。



ジェンダーギャップとは

町長の考えるジェンダーギャップとは何か。

答 各国の男女格差を経済、教育、健康、政治の4分野で評価し、国ごとのジェンダー平等の達成度を指数化したものがジェンダーギャップ指数であると認識している。

特に政治の分野においては女性の登用が不十分であると認識しており、無意識な思い込みや性別による役割分担意識を解消することが、女性の活躍や社会進出を促進させ、経済格差や政治格差を解消させる環境づくりの第一歩になると考えている。

問 男女共同参画を推進した結果、世の中はどう変わるか。

答 性別にかかわらずなく、誰もが能力と個性を発揮でき、自分らしく生きやすい社会の実現に寄与するものと考えている。

役場に格差はあるのか

問 役場職員に性別を理由とした賃金の格差はあるか。

答 役場職員において、性別を理由とした賃金の格差はない。

問 役場職員の人事において、女性であることを理由に昇進できないなどの障壁はあるか。

答 女性であることを理由に昇進できないなどの障壁はない。
性別に関係なく、引き続き男女共同参画に向けた取り組みを推進したい。



ジェンダーギャップ (男女間格差)

メディアの偏った情報を鵜呑みにしてはいけない

【問】残念ながら、我が国が男女共同参画を進めた結果どうなるかというデータはない。

現在メディアに取り上げられるジェンダーギャップは、世界経済フォーラムという世界情勢の改善を取り組む国際機関が発表したもので、わが国は125位と、数字だけを見れば不名誉な位置にいる。

一方、世界価値観調査においてはまったく逆の結果が出ており、日本は女性の幸福度が高く、男性の幸福度が低い世界一のジェンダーギャップの国である。

わが国の自殺者数は、男性が7割弱、女性が3割強であることから、この結果が正しいことが分かる。

またアンケート等でも7割の女性がまた女性として生まれ変わりたいと答えており、わが国は女性の幸福度が極めて高いことが分かる。

日本人女性の平均寿命は86・9歳と世界一だが、研究者によると、ここまで女性の

社会的地位が低い国で長寿なのは日本だけだそうで、そんなわが国が他国と同じことをやっても同じ結果にはならないはずだ。

以上のことから、本町が世界経済フォーラムのデータを鵜呑みにして、他国のような男女共同参画に取り組む必要はないと断言する。

人生の満足度は幸せかどうかであり、決して役職や立場や男女の比率ではない。

今の流れは、女性の割合を増やすことだけが目的となり、むしろ女性の幸福度を下げるのではないかと懸念している。

【答】能力のある女性に異動命令を出した場合、本人に勘弁してくれと言われれば、無理にその職に就けることはない。

ただ、男女の分け隔てをなくし平等に扱っていききたい。



多様性の社会とは

違いを認め合うこと

【問】男女共同参画センターのある講師から、日本の慣習、風習を否定し、高齢の男性を蔑視するような発言があったがどのように思うか。

【答】参画センターの助言をすべてを鵜呑みにすることはない。

男女の格差だけではなく、障がい者や高齢者や子供が平等に幸せに過ごすことが本来の姿だと思う。

【問】学校の教育において、男女共同参画センターによる「女性に対する暴力をなくす運動」のような、男性ばかりを加害者にした教育は許されないと思うが町長はどう思うか。

【答】同感だ。性別に関係なく、すべての暴力が許されない。

【問】多様性を認める社会であれば、日本は日本らしく、小値賀町民は小値賀町民らしくで良いのではないか。

女性に対する差別や、昇進などに障壁がないのであれば無理に変える必要はない。

【 質問を終えて 】

現在、政治や組織の意思決定機関では、男女の比率ばかりに注目が集まっています。本町においても男女共同参画が進められていますが、数を増やすことばかりが目的となれば、本町の女性は地区の会長、PTA会長、各種団体の役員など、これまでやらなくてもよかった仕事や責任を背負わされることになりかねません。

この問題についてご興味のある方は、議会 YouTube や本町のホームページをご覧ください。わずか2ページでは到底収まり切れない情報や、私の想いを感じ取っていただければと思います。

町長には、本町に暮らす全ての町民に幸せを感じてもらえる町づくりを期待する。
【答】子供から大人まで男女区別なく幸せに暮らしていただけるよう追求していきたい。

人材と公園の利活用について

医師、医療、福祉、公園 町民の健康を第一に！

良い意見を伺った公園関係の整備を進めたい



江川 春朝議員



YouTube

※ここから動画が見られます！

診療所医師について

閩本町診療所は医師によって診察を求める患者数に偏りがみられるが原因を把握しているか。

●患者が休日後の月曜日と休日前の金曜日に多くなると予測し、火曜日から木曜日の3日間で診察を受ける傾向が多い。

また、火曜日と木曜日の午後が休診のため、水曜日に患

者数が多くなっている。

閩常勤医師2名体制に向けての進捗状況の報告と、今後の介護の人材や人手は充分か。

●長崎県企業団企業長と病院長との3者で最後の調整に入っている。

長崎大学病院長崎地域医療人材センターから、小値賀町の医療体制等について全面的にバックアップしていただけるという話もいただいている。

また、介護人材の不足は大



きな課題と考えており、令和4年度から介護人材就職支援金支給事業を開始し、介護人材確保への支援を行っている。同時に要介護者を増やさないための運動教育や健康教育、各地区への通いの場の設置などフレイル予防の取り組みに努めていきたい。

介護職に手厚い支援を

閩介護人材は絶対不可欠とされるにもかかわらず、従事者に対しての本町の扱い方では今後心配だが、どう考えているか。

●待遇改善面については各施設とも話し合いを持つ場を設けたいと思う。

介護予防者に要介護にならないような、予防教育や予防教室をやるのが本町の務めだ。

閩介護職や社会貢献度の高い職場への就労と移住支援をセットで強化し、進めることも一つの手だと思いがどうか。

●養寿園も社会福祉協議会も民間であり、町から資金を出すのは難しいので、話し合いを持つ場を設けて議論をしていきたい。



診療所医師、医療・介護の人



公園を活用し 健康町づくりを

公園の活用について、子供たちに楽しんで喜んでもらうことも島にとって子育て環境の魅力アップになる。

特に、前浜公園をもっと有意義に活用してはどうか。

答前浜公園に限定せず最適な場所にアスレチック等の遊具の設置を検討したい。

公園にベンチや小上がりのデッキスペースを多数設置すればゆっくり過ごせ利用が増加するかもしれない。先進国では「葉の処方の前に公園の処方」を」とまで言われているがどう思うか。

答公園が介護予防に役立つとは考えたことがなかったので反省したい。

公園整備については、子供から大人までゆっくりできるような施設を一緒に考えていきたい。

健康管理や包括支援と連動した公園づくりなら誰にとっても平等で、気軽に気持ちよく取り組めることから町民の健康寿命に貢献でき、誰もが笑顔になれる公園づくりに予算をつける価値は十分にある。

答大変いい意見を伺ったので、公園関係の整備については続けて進めていきたい。



【 質問を終えて 】

あらゆる問題、課題に対して、町長が答弁をオブラートに包む必要があるとしても、少しでも改善をほどこそうとする気持ちが本当にあるのなら、その町長の姿を見せて欲しいです、私含め町民も期待していると思います。

医療や介護、毎日大変なお仕事を、笑顔でこなす従事者の皆さん、本当にいつもありがとうございます。

私は、今後も自分の意見よりも、町民皆さんの、生の声を直接届けることを使命だと思い頑張ります。



景観について

本町喫緊の課題である空き家問題 どう解決するのか！

所有者に対し 粘り強く助言していききたい

A Q



横山 弘藏議員

※ここから動画が見られます！



YouTube

問 空き家もたらす周囲への悪影響をいかに最小限にとどめるか。

答 景観や衛生、防災面でも空き家対策はしっかり取り組むべき必要があり、国の文化的景観にも選定されている当町において、町長はどのように認識しているか。

答 今年度の空き家等実態調査業務委託事業の実施により、現在の空き家の件数や状態などを把握し、今後の空き家対策に反映させたい。

問 いくつかの条例規則要綱を生かして取り組むべきと思うが、現在までの空き家対策はどのような状況なのか、活動内容も含めて伺う。

答 空き家は個人の財産であり、所有者が適正に管理する責任もあるので、県の指導や先進事例も参考にしながら効果的な対策に取り組みたい。

問 空き家の所有者が抱える資金面や、その他の悩みなど高齢化とともに増え続ける問題を一つ一つ解決すべきではないか。

答 令和6年度に空き家対策計画を策定し、補助事業での空き家対策を行えるように取り組みたい。

問 他の自治体の事例にもあるように、直接出向いていろいろな問題点を聞き出し一緒に解決策を模索するなど、対応の仕方についてどのように考えるか。

答 適切に管理されていない空き家に対して指導書、助言書など送付しても回答がないものが多いので、直接伺うことも検討したい。





空き家対策

外部委託は検討できないか

【問】資金面や相続の問題は非常に複雑で、今の役場の状態では人を割くのは無理かと思うので、外部に委託して体制を整えるのがいいのではないか。

【答】金銭面などの問題から町に寄附するという話もたくさんあるが、活用することもなくただ平地にするだけとなると、金銭的な問題だけで町には全くメリットがない。来年度予定している空き家等対策計画を策定すると、国の補助が出るので、そういう手段も利用しながら所有者探しも行っていきたい。



一筋縄にはいかない

空き家問題

【問】今後空き家になる可能性があるある家屋についても、相続する方、身内の方を台帳に整えてすぐに対応ができるような体制づくりが必要と考えるがどうか。

【答】今後、相続が罰則付きの義務化になるので、このような物件が増え続けることはない。空き家等実態調査委託業務に関しては、年度末までにアンケートの結果が出る。

【問】台風や強風で瓦や樹木が落ちて非常に心配だという相談を受けた。そのような物件を特定空き家に指定し、助言指導、勧告ができる。

【答】勧告命令に違反した場合50万円以下の罰金が課せられ、行政代執行で解決する方法があるが、そのような対応はできないか。

【答】業務負担を先方が負担ということであればいいが、そうではなければすべて町の負担になってしまう。

【問】法にない独自の手続きとして緊急安全措置をすることで法の手続きを得る時間的余裕がない場合、町による必要最低限の代執行が可能になる。

【答】通行人や周りの方に危険を及ぼすような物件については、所有者に許可を取る余裕もないので取り壊した例もある。

【問】行政が主体的に動かないと空き家の問題は解決しない。

【答】調査をして本当に差し支えるようであれば処理したい。



【 質問を終えて 】

空き家をそのままにしていると、いずれ近隣の住民に大変な迷惑をかけることとなります。そして防災、景観、衛生面など多くの問題がでてきます。

行政だけの問題ではなく、町民みんながこの問題に正面から取り組んで行きたいものです。

表紙の写真

12月9日、離島開発総合センターにて、第40回すすてくろ広場が開催されました。

当日は、子どもと保護者113人、スタッフ43人が集まり、盛大な餅つき大会になりました。

最後はつきたてのお餅を使ったぜんざいを美味しくいただきました。



会場のようす



きれいに丸くするのたいへん!



ぜんざいおいしい!



『ギカイの窓』開いています!



小値賀町議会では、町民の皆さんのいろいろな意見をうかがって議会活動へ反映させようと「ギカイの窓」を開設しています。

議会に対してだけでなく町政に対する質問、意見、要望、相談や提言など、町民の皆さんが議員や議会に直接相談できる場で、まずは電話かメールで、議会事務局にご連絡ください。

相談は原則として、役場3階の議員控室で行います。

相談する議員は指名もできません。指名がなければ、相談内容により事務局で決めます。

相談内容の公開は、原則としてご希望に応じます。

なお、公共の福祉に反すること、個人的な要望、議員や役場職員に対する苦情などには対応できませんのでご了承ください。

電話 0959-56-3111 役場内議会事務局
メール gikaisodan@town.ojika.lg.jp

小値賀町議会
Facebook

小値賀町議会
YouTube

編集	小値賀町議会広報常任委員会
発行責任者	小値賀町議会議長
電話	0959-56-3111

編集後記

先月行われた令和5年12月会議では、議長を除く7名の議員が一般質問に臨みました。

町民のみなさんの声を、各議員が一つでも多く届けたい一心で、それぞれのカラーを存分に出し、それはまるで、町民の声でできた虹の架け橋が、議場を彩っているように感じました。

「私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地べたを速くは走れない、みんなちがってそれぞれいい、みんなちがって、それがいい。」

娘が小さい頃歌った曲の歌詞、私は今頃やっと、この歌詞の素晴らしさ、大切さに気付き始めました。

議員になり、自分の無知に気付かされ、自分のエゴに気付かされ、今までの人生で、一番濃い時間を過ごさせて頂いていることに、感謝します。

これからも、町民のみなさんの小さな声に耳を傾け頑張りまします。本年もどうぞ、よろしくお祈り致します。

編集委員 江川 春朝